### **GMO**INTERNET GROUP

### GMO インターネットグループ株式会社

2023年12月期第3四半期決算説明会

2023年11月14日

#### イベント概要

[企業名] GMO インターネットグループ株式会社

[**企業 ID**] 9449

[**イベント言語**] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2023年12月期第3四半期決算説明会

[決算期] 2023 年度 第 3 四半期

[日程] 2023年11月14日

[ページ数] 36

[時間] 16:00 - 16:30

(合計:30分、登壇:30分)

**[開催場所**] インターネット配信

[会場面積]

[出席人数]

[登壇者] 2 名

取締役 グループ副社長執行役員・CFO グループ代表補佐

安田 昌史(以下、安田)

グループ執行役員 グループ財務部長 稲垣 法子(以下、稲垣)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375



#### 登壇

**司会**:皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、GMO インターネットグループ第 3 四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日の説明会の登壇者についてご案内いたします。本説明会には、グループ副社長・CFO 安田昌 史、グループ執行役員・財務部長稲垣法子が出席しております。本日は、決算概要についてご説明 した後に質疑応答を行います。決算に関する発表資料は、当社ホームページに掲載しております。

また、終了後、アンケートのリンクが表示されますので、ご回答いただけましたら幸いでございます。ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。それでは、副社長の安田よりご説明いたします。

**安田**: GMO インターネットグループ CFO の安田でございます。2023 年 12 月期第 3 四半期決算 説明会にご参加いただきまして、ありがとうございます。さて、当社は 12 月決算ですので、7-9 月の決算についてご説明をいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

- 1. 結論と要約
- 2. グループ概況
- 3. セグメント別状況
  - ①インターネットインフラ事業
  - ②インターネット広告・メディア事業
  - ③インターネット金融事業
  - ④暗号資産事業
- 4. トピックス

GMO

本日のアジェンダは、ご覧のとおりとなっております。

サポート



#### 結論と要約 | Q3 (7-9月) 決算サマリー

(億円)	Q3'22 (7 <b>-</b> 9月)	Q3'23 (7-9月)	増減額	増減率
売上高	575	625	+49	+8.5%
営業利益	70	94	+23	+33.9%
経常利益	89	97	+7	+8.4%
最終利益	▲16	32	+49	-

まずは、決算サマリーとなります。数字はご覧のとおり、前年同期と比べますと増収増益の決算と なっております。最終利益は、前年は関連会社株式に対する特別損失の計上があったことから、大 幅増となっております。

#### 結論と要約 | Q3 (7-9月) 決算サマリー

小口の間では	女ポソ	Q3 (7-	フロ)次弁:	<b>9 4</b> 9 –		評 Q3	価 Q2
インフラ	売上 営業 利益	<b>424</b> 億 <b>61</b> 億	(YoY+11.6%) (同+29.0%)	圧倒的No.1サービスの集合体 各事業バランスよく伸長	<b>0</b> →	0	0
広告 メディア	売上 営業 利益	<b>85</b> 億 <b>4</b> 億	(同▲3.4%) (同▲34.2%)	一部業種の反動滅、顧客の予算縮小が響く 粗利減をコスト抑制で補いきれず	^ × <b>→</b>	×	Δ
金融	売上 営業 利益	<b>105</b> 億 <b>36</b> 億	(同+5.4%) (同+34.3%)	FX: 円安一方向も収益性改善施策が奏功 CFD: 取引高はやや低調も収益は堅調 海外: タイ証券、貸引戻入益を計上	<b>⊗</b> →	0	0
暗号資産	売上 営業 利益	<b>9</b> 億 ▲ <b>5</b> 億	(同+23.6%) (前年は▲8億)	市況は低調も、中長期的な期待値は不変		Δ	Δ
GMO							4

GMO

フリーダイアル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



続いて、各セグメントのサマリーです。右側にマネジメントによる定性評価を 20 のものと合わせ て記載しています。まず、インフラは◎。増収増益となりました。圧倒的 No.1 サービスの集合体 という強みを生かし、各事業がバランスよく伸びております。

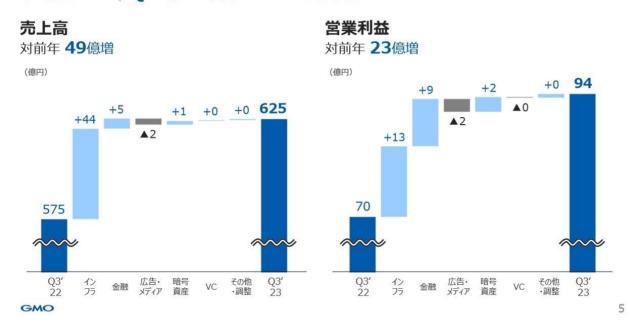
広告・メディアは×。減収減益となりました。自社メディアは好調に推移しているものの、広告代 理において一部業種の反動減、お客様の予算縮小の動きが見られ、減収となりました。また、粗利 の減少を、コスト抑制で補い切ることができませんでした。昨年までのV字回復基調から一転、 今期は減益となる見通しですが、来期以降の再成長に向けた施策を進めてまいります。

そして金融は○。増収増益となりました。FX は○。円安一方向の相場環境で収益を出しづらい地 合でしたが、前年第 4 四半期以降の収益改善の施策の効果が表れております。そして CFD は $\bigcirc$ 。 コモディティ関連が活況だった前年比で取引高はマイナスとなりましたが、収益は堅調に推移し、 FX に次ぐ主力商材となっております。

海外は△です。タイの証券事業において、貸倒引当金の戻入益約5億円の計上がありました。今後 も不良債権の回収を進めるとともに、信用取引残高そのものの圧縮も図ってまいります。そして、 暗号資産は△。増収赤字幅縮小となりました。GMO コインで展開する交換事業は口座数が堅調に 推移しております。

一方、マーケット環境は、ビットコイン価格の上昇など、反転の兆しは見られるものの、取引高は 業界全般に低水準で推移をいたしました。このようなコンディションが続いておりますが、暗号資 産市場がポテンシャルある領域という見方は変えておりません。しかるべきときにしっかり利益を 出せるよう、淡々と体制を構築してまいります。

#### 結論と要約 | Q3 (7-9月) YoY増減分析



続いて、セグメントごとの売上利益の前年同期の増減分析です。左が売上、右が営業利益となっております。広告・メディアが弱含みで推移をいたしましたが、インフラ・金融で売上利益を積み上げたことにより、連結では49億円の増収、23億円の増益となりました。

#### 結論と要約 | Q3累計 (1-9月) 決算サマリー

前年はインキュベーション事業が大きく貢献

	(億円)	Q3′22 (1-9月)	Q3'23 (1-9月)	増減額	増減率	
	売上高	1,831	1,925	+94	+5.1%	最高業績
	営業利益	380	300	<b>▲</b> 79	▲20.8%	
	経常利益	424	322	▲101	<b>▲</b> 24.0%	
	最終利益	138	96	<b>▲</b> 42	▲30.5%	
GMO						6

サポート

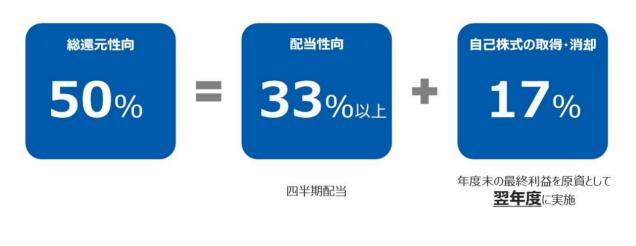
日本 050-5212-7790 米国

1-800-674-8375



こちらは、1-9 月累計の数字です。数字は、ご覧のとおり、前年同期と比べますと、増収減益の決 算です。前年のインキュベーション事業での利益貢献 103 億円が計上されましたが、それが主な 要因となっております。

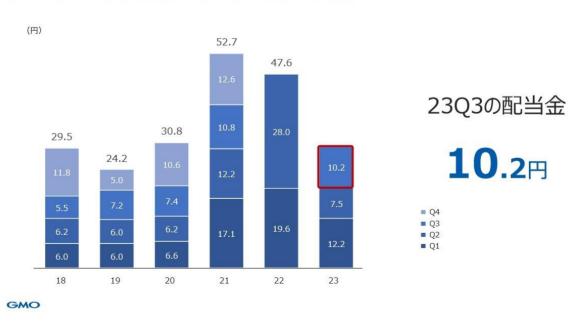
#### 結論と要約 | 株主還元 (方針)



GMO 7

次に、株主還元についてです。基本方針は、総還元性向50%です。このうち配当に33%以上、残 りの17%を自己株式の取得・消却に充てるという内訳です。

#### 結論と要約 | 株主還元 (1株あたり配当金)



サポート

1-800-674-8375 日本 050-5212-7790 米国 フリーダイアル



こちらは1株当たりの配当金の推移です。今期も業績予想、配当予想を非開示としています。この ため、配当金についても四半期ごとの発表となります。前年同期は四半期純損失となったことから 無配とさせていただきましたが、第3四半期の配当金は10.2円となっております。

#### 結論と要約|株主還元(自己株式の取得・消却)

今期分の取得が完了

	実績
取得価額	15.0億円
取得株式総数	<b>56.</b> 3万株

※23/2/13開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得



9

最後に自己株式の取得についてのご報告です。ご覧のとおり、取得が完了しております。



GMO

さて、業績の詳細に入る前に、前回同様、改めて当社グループの強みについてご説明をいたしま す。大きく二つとなります。

#### 強み①

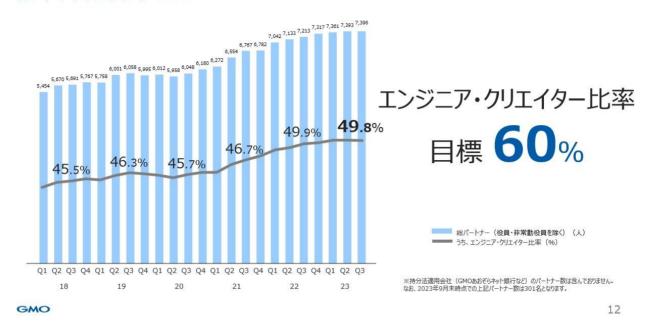
## 自社開発·運用

GMO 11

一つ目です。自社開発・自社運用へのこだわりです。インターネット産業という変化の速い産業で勝ち続けるため、私たちは No.1 サービスへのこだわりを強く持っております。このため、自らつくって自ら運用する、ものづくりの会社でなければならないと考えております。



#### 強み①自社開発・運用



重要となりますのは、エンジニア、クリエイター、ディレクターといったものづくりに関わる人です。9月末のパートナー数、私達は従業員のことをパートナーと呼んでおりますが、パートナー数は7,400名弱。このうちつくる人の比率は49.8%です。

このつくる人比率の目標値を設定したのが 2011 年。当時の目標値は 50%でした。そして、実績値を投資家の皆様に初めてお示ししたのは 2014 年 2 月。当時の値は 37.1%でした。目標値である 50%の達成が見えてきたということもありまして、60%に引き上げたのが今年の 2 月となります。 インターネットの時代は感性の時代です。素晴らしいクリエイターを増やし、UI/UX・クリエイティブの GMO と言われるべく、ものづくりの会社として成長を続けてまいります。

#### 強み(2)

## 岩盤ストック収益

GMO 13

そして、強みの二つ目ですけれども、GMO 用語でもあります岩盤ストック収益という、当社グループの収益モデルとなります。

#### 強み②岩盤ストック収益とは

## 無くならない、無くてはならない かつ

## 継続課金の商材

**GMO** 14

前期で14期連続増収増益を達成することができたのは、創業以来、岩盤ストック収益を積み上げてきたからと考えております。これはインターネットが続く限りなくならない、なくてはならない、かつ、継続課金の商材からもたらされるストック収益と考えております。

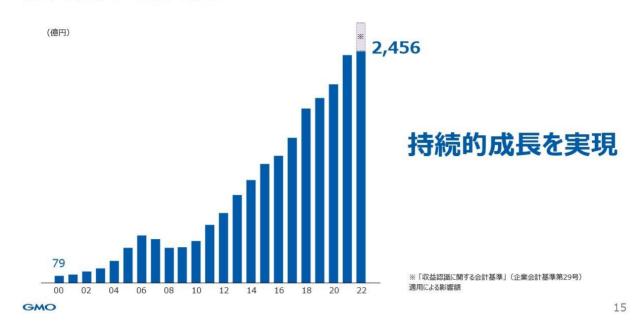
サポート

日本 050-5212-7790 米国

1-800-674-8375



#### 強み②連結売上高の推移



こちらは連結売上の推移です。ご覧のとおり、創業以来、持続的成長を実現してまいりました。

#### 強み②連結売上高の分析



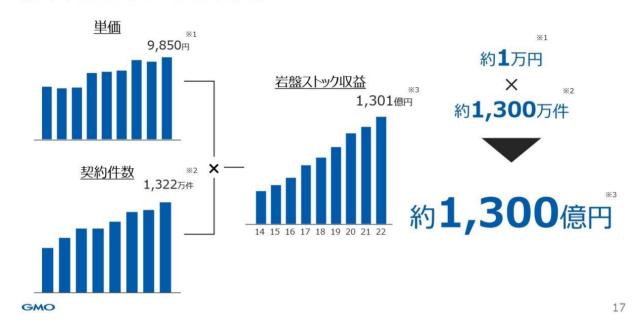
こちらは、売上を岩盤ストック収益とそれ以外に分解したものです。赤線は、連結売上に占める岩盤ストック収益の比率となっています。

フリーダイアル

0120-966-744

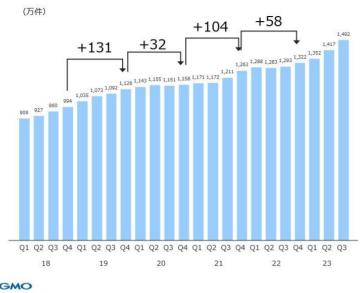
岩盤ストック収益には、インフラ事業における継続課金型収益と継続課金に近いトランザクション 型収益を含めています。ご覧のとおり、岩盤ストック収益こそがわれわれの持続的成長を支えてお ります。

#### 強み②岩盤ストック収益の分析



こちらは、岩盤ストック収益を単価と件数に割り戻したものです。単価、件数ともに拡大を続けて おります。昨年の1,301 億円という岩盤ストック収益は、年間の単価約1万円掛ける約1,300万件 の契約件数から生み出されているということです。契約件数は、足元でも毎日1万件の新規のお申 し込みをいただいています。インターネット上の情報量、トランザクション量が拡大するにつれ、 今後も拡大していくものと考えております。

#### ネットインフラ | 契約件数



岩盤収益基盤 1,492万件

約81万件增/年平均

GMO 18

こちらはインフラの契約件数の状況です。岩盤ストック収益を支える岩盤収益基盤と言い換えるこ とができます。9月末では1,492万件となっております。商材ミックスの変化もあるため、増加ペ ースは一様ではありませんが、過去の年度末の数字をご覧いただきますと、おおよそ年間81万件 ベースで増加している計算となります。単価については、上昇傾向であることを考えますと1万円 強となり、掛け合わせると、おおよそ年間 100 億円近い売上が積み上がっていく計算となりま す。

今後もどうぞ、ご期待ください。

さて、次のグループ概況からは、グループ執行役員・財務部長の稲垣よりご説明をさせていただき ます。

米国

#### グループ概況 | 事業領域



岩盤収益基盤 +金融顧客基盤 1,750万顧客 1,492万厘 58万厘 対前年

インフラ199万件+金融13万件

※売上比率はセグメント間取引消去前の数値で算出。インフラ、金融、暗号資産事業の契約数を実数で集計。インターネット金融事業の口座数にGMOあおぞらネット銀行の口座は含みません

GMO

20

**稲垣**: GMO インターネットグループグループ執行役員・財務部長の稲垣です。よろしくお願いいたします。グループ概況について、私よりご説明いたします。

事業領域を俯瞰した図となります。領域の大きさは売上構成比を示しています。先ほど安田からご紹介した岩盤収益基盤としてのインフラ契約件数 1,492 万件に、FX、証券、暗号資産の口座数を合わせた顧客基盤は 1,750 万件となっております。

#### グループ 概況 | 上場グループ 10社 時価総額・持分相当額

コード	社名	市場	時価総額 ※1 (億円)	持分比率 **2	持分相当額 (億円)
9449	GMOインターネットグループ	プライム	2,540		
3769	GMOペイメントゲートウェイ	プライム	5,855	40.7%	2,384
4051	GMOフィナンシャルゲート	グロース	872	23.4% <sup>**3</sup>	204
7177	GMOフィナンシャルHD	スタンダード	860	65.8%	566
3788	GMOグローバルサイン・HD	プライム	309	51.8%	160
3633	GMOペパボ	スタンダード	67	59.5%	40
4784	GMOアドパートナーズ	スタンダード	62	57.0%	35
6180	GMOメディア	グロース	55	65.9%	36
3695	GMOリサーチ	グロース	47	54.8%	25
6026	GMO TECH	グロース	43	54.1%	23
	グループ10社合計		1兆715億円	64	3,477億円

%1:時価総額は11/13時点 %2:持分比率は9月末時点の間接保有分を含む値 %3:GMO-PGを通じた間接保有分 %4:単純合算

GMO 21

サポート

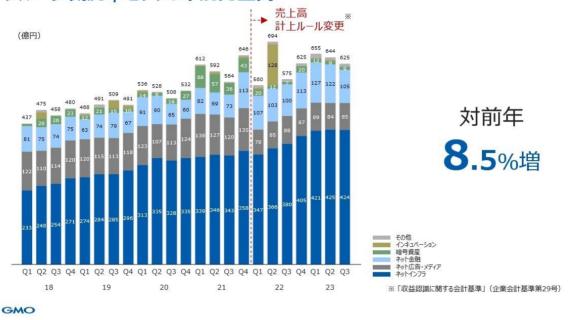
日本 050-5212-7790 米国

1-800-674-8375



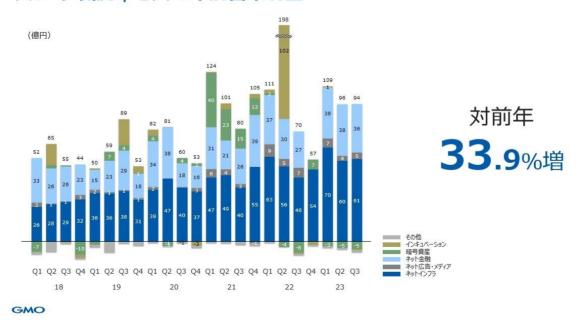
グループ上場 10 社の時価総額と当社の持分相当額となります。グループ時価総額は合計 1 兆円強、そして当社の持分相当額は 3,000 億円を超えてきていることがご覧いただけるかと思います。

#### グループ概況 | セグメント別売上高



こちらはセグメント別の四半期売上高の推移です。前年同期から売上高計上ルールの変更がありましたが、一番下、濃いブルーのインフラを中心とした成長トレンドが継続しております。

#### グループ概況 | セグメント別営業利益



サポート

フリーダイアル

日本 050-5212-7790 米国

1-800-674-8375

'

23

続いて、セグメント別の四半期営業利益の推移です。インフラの岩盤ストック収益をベースに高収 益な金融事業による持続的成長という見方は全く変わっておりません。

#### ネットインフラ No.1サービスの集合体



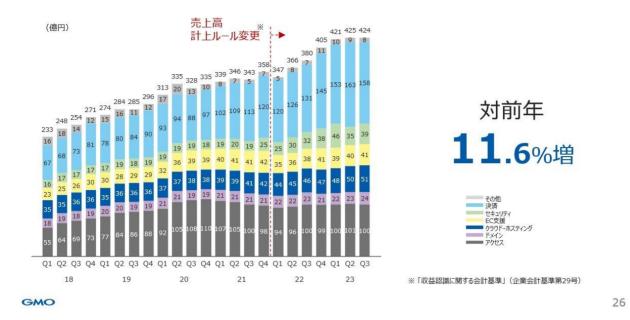
※5:7.エルミ推定により ※6:23(3より参くの店子をもう特定の加盟店について、店子の数に関わらず1店とカウントする計上方法へ変更 ※7:2020年 オリコン顧客満足度ランキングプロバイダ広域企業

続いて、インフラです。こちらはインフラ事業の事業内容です。ドメイン、クラウドホスティン グ、EC プラットフォーム、SSL サーバー証明書、電子印鑑、サイバーセキュリティ、決済、アク セスと、いずれもインターネット社会にとってなくならない、なくてはならない No.1 サービスの

フリーダイアル

集合体です。

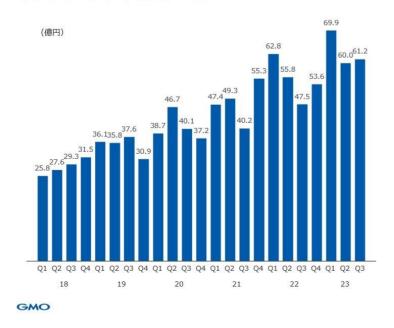
#### ネットインフラーセグメント別売上高



こちらは、四半期売上高の推移とその内訳です。圧倒的 No.1 サービスの集合体という強みを生かし、各事業がバランスよく伸びています。この四半期も 11%増と、強い数字が出ております。なお、直前の四半期からややマイナスとなっております。

こちらは水色の決済事業において、GMO フィナンシャルゲートで展開する対面決済分野の大口案件の貢献があったことによるもので、トレンドに変化があるものではございません。

#### ネットインフラ | 営業利益



対前年 **29.0**%増

27

サポート

日本 050-5212-7790 米

1-800-674-8375



四半期営業利益の推移です。各事業がバランスよく成長し、ご覧の数字となっております。

#### ネットインフラー暗号セキュリティ



# 電子印鑑なら

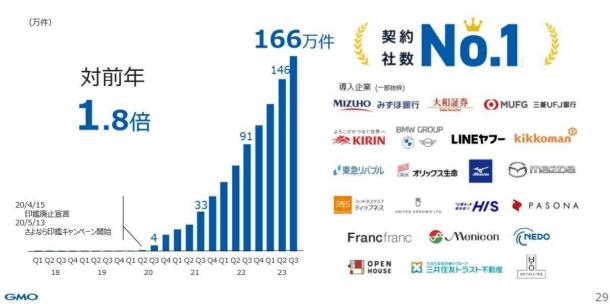
## 契約社数 国内No.1 送信件数 国内No.1

**GMO** 28

さて、戦略事業としてグループを挙げて展開している、暗号セキュリティ GMO サインの事業進捗についてご報告いたします。契約者数だけではなく、送信件数でも No.1 となっているのはご案内しているとおりです。

#### ネットインフラ | 電子印鑑 契約社数





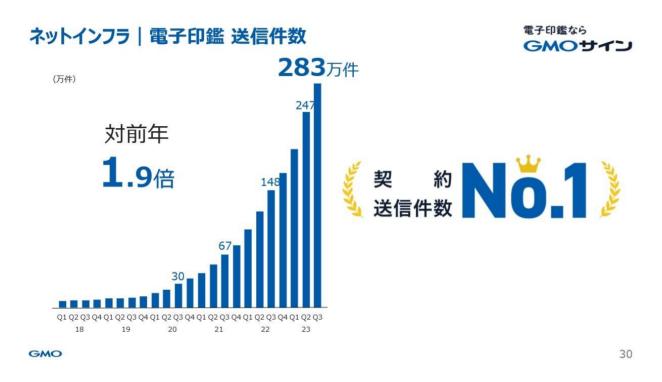
サポート

日本 050-5212-7790 米国

1-800-674-8375



まず契約者数の状況です。2020 年 5 月に、コロナ禍においてグループを挙げて取り組んださよなら印鑑キャンペーン以降も、いわゆるネットワーク効果、グループシナジーによる顧客基盤の拡大が続いております。直前では、メガバンク 2 行様にもご導入いただくなど、ご覧のような大手企業様への導入も順調に進んでおり、まだまだ市場拡大フェーズと考えております。



次に、送信件数です。送信件数は、お客様のアクティビティの高さを示す最重要 KPI と捉えています。不動産業など、アクティビティの高いお客様の利活用が順調に拡大し、売上成長につながっています。



#### ネットインフラ | デジタルガバメント



**65**の公共団体への導入が決定<sup>\*</sup>



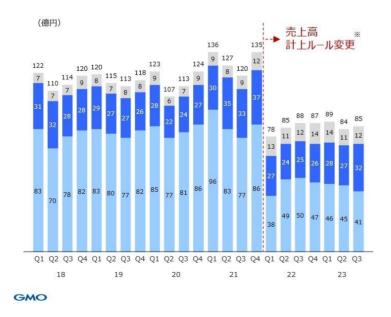
### 自治体導入でもNo.1へ 三冠を目指す



31

そして、デジタルガバメントへの取組みです。自社認証局の強みを生かして、GMO サイン電子交付の導入を推進しています。自治体導入でも No.1 に向け、既に 65 の公共団体様への導入が決定しています。契約者数、送信件数と合わせて 3 冠達成を目指し、さらなる成長へつなげてまいります。

#### ネット広告・メディア | セグメント別売上高



対前年

3.4%減

- インターネットリサーチ・その他■ インターネットメディア
- インターネット広告
- ※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)

33

サポート

日本 050-5212-7790

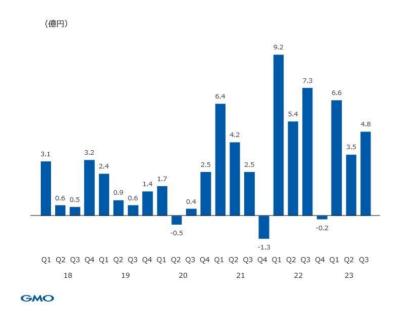
米国

1-800-674-8375



続いて、広告・メディアです。四半期売上の推移とその内訳です。濃い青のメディアは、自社メデ ィアの PV 数の増加を受け、アフィリエイト広告を中心に好調に推移しました。一方、水色のネッ ト広告では、広告需要に関する動向に変化が生じております。コロナの行動制限緩和により需要が 増す広告主が存在する一方、巣ごもり需要により活況であった業種の予算減少など、広告主様の事 業性質により変動が激しくなっております。こうした事業環境の変動による広告予算の減少の影響 が大きくなっております。また、アドネットワーク広告の単価下落を受け、軟調な推移となりまし た。

#### ネット広告・メディア | 営業利益

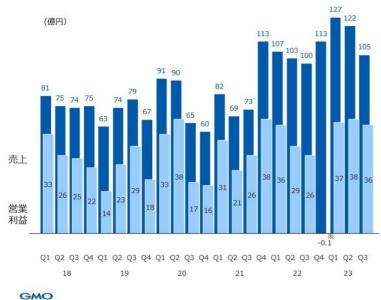


対前年

こちらは、四半期営業利益の推移です。こちらも売上と同様、自社メディアは堅調に推移いたしま したが、広告代理での粗利の減少をコスト抑制で補うことができませんでした。昨年までのV字 回復基調から一転、今期は減益となる見通しですが、GMO アドパートナーズでは、組織変更を予 定するなど、来期以降の再成長に向けた施策を進めております。

米国

#### ネット金融|四半期業績推移



対前年 5.4%增収

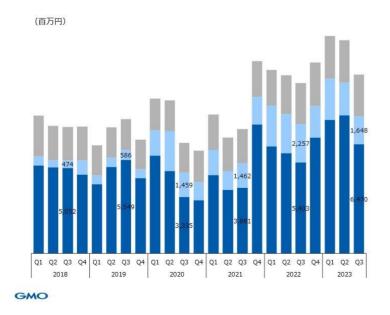
34.3%增益

※97証券引当金繰入額 35億

続いて、金融です。四半期業績推移はご覧のとおりです。昨年末から強化している収益改善政策の 効果が継続し、対前年では増収増益となりました。

一方、為替が円安に進み、ボラティリティが低下したことにより、対前四半期では売上・利益とも に伸び悩みました。なお、利益につきましては、前年の第4四半期以降、タイの証券事業での貸倒 引当金の繰入が発生しておりましたが、当四半期においては約5億円の戻入益がありました。

#### ネット金融|商品別売上高



FX:円安が逆風

CFD:堅調

株式その他

37

36

サポート

フリーダイアル

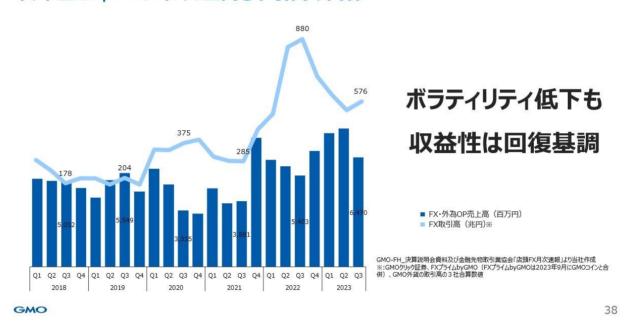
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375

0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



こちらは、商品別売上高の推移です。濃いブルーの FX は、足元の円安進行に伴う為替のボラティリティが低下したことにより、売上は減少しました。また、濃いブルーの CFD は、コモディティ関連指数の取引高が伸び悩みましたが、主力商材として堅調に推移しております。今後も、われわれの強みであるデリバティブ取引のノウハウを各社へ展開しつつ、積極的にクロスセルを行ってまいります。

#### ネット金融 | FX事業 売上高と取引高の関係



こちらは、FX 事業の売上と取引高の関係を表した図です。この四半期は円安が一方的に進んだことにより取引高は増加しましたが、ボラティリティが低下したことにより収益性も低下し、対前四半期では減収となりました。しかしながら、昨年末から強化している収益性の改善施策により、対前年では収益性は回復基調にあります。

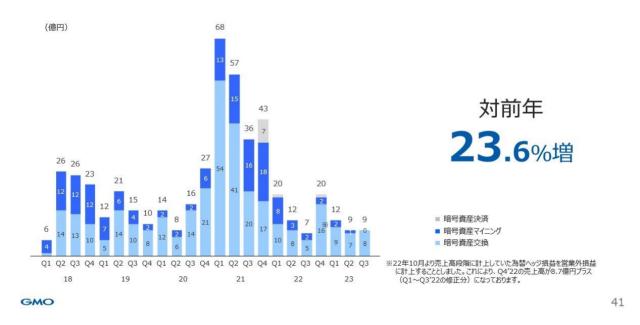
米国

#### 暗号資産



続いて、暗号資産です。暗号資産はこの三つの事業を展開しております。それぞれマイニング、交換、決済です。

#### 暗号資産 | セグメント別売上高



四半期売上の推移とその内訳です。交換事業は低調なマーケットとなり、マーケットなりの売上となりました。一方、世界的な暗号資産マーケットへの逆風が続く中でも、GMO コインの口座数は 堅調に伸びています。

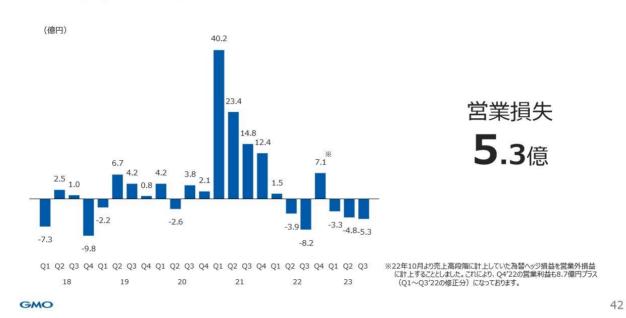
#### サポート

日本 050-5212-7790 米国

1-800-674-8375



#### 暗号資産|営業利益



こちらは四半期営業利益の推移です。対前年では赤字幅が縮小したものの、損失計上が続いております。取引高自体の減少が継続しており、収益を出しにくい状況が続いています。こうした中、コストもコントロールし、できるだけロスが出ないように取り組んでおります。

マーケット環境は、ビットコイン価格の上昇などの反転の兆しが見られるものの、内部的な施策を 淡々と継続し、再度マーケットが活況になった際に利益を出せる体制を構築しております。各事業 の状況は以上となります。最後のトピックスについては CF の安田がご説明いたします。

米国

#### セキュリティ事業 | スローガン

# すべての人に 安心・安全なインターネットを

**GMO** 44

**安田**: それでは、最後にトピックスです。本日は三つお話をいたします。まずは、セキュリティ領域への取組みについてです。「すべての人に安心・安全なインターネットを」。こちらはセキュリティ事業のスローガンとなります。サイバー攻撃が深刻な社会課題・経営リスクになってきているというお話はこれまでもさせていただいていますけれども、メディアでもサイバー攻撃への対策強化に向けた、国内外の政府機関の動きを報じるものが増えてきています。

当社グループとしては、今後ますます加速するセキュリティのニーズに応えるべく、こちらをスローガンとして掲げております。

#### セキュリティ事業 | 3つの領域

①暗号セキュリティ

GlobalSign.

- ②サイバーセキュリティ
- GMO CYBER SECURITY
- ③ブランドセキュリティ
- **GMO**BRAND SECURITY

GMO 45

改めて、セキュリティ事業の三つの領域をご紹介します。まず、認証技術を活用した SSL などの 暗号セキュリティ。日本最強のホワイトハッカー集団によるサイバーセキュリティ。そして、ドメイン・商標のプロによるブランドセキュリティです。



### 日本最強のホワイトハッカー集団

GMO 46

今回は、昨年1月にグループジョインしました日本最強のホワイトハッカー集団、GMO サイバーセキュリティ by イエラエのアップデートとなります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国

1-800-674-8375



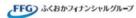
#### サイバーセキュリティ事業 | 導入事例































































GMO

47

まず、サイバーセキュリティの導入事例です。GMO サイバーセキュリティ by イエラエの最大の 強みや技術力です。攻撃者の視点を有するホワイトハッカーが行う脆弱性診断を、ご覧のような国 内外の幅広い業界・業種の企業様にご利用いただいております。また、グループシナジーによりま して、銀行様とのお取引も順調に拡大をしています。

#### サイバーセキュリティ事業 | 実績



## サイバーセキュリティ診断 6,000件以上















※1:2023年 DEF CON 31 Cloud Village CTF: 世界1位 ※2:2017年 Practical CAN Bus hacking CTF: 国内1位 ※3:当社調査による ※4:サイバーセキュリティに関する総務大臣奨励賞を受賞(23/3/16)※5:警察庁より感謝状をいただきました(23/1/30)

GMO

実績はご覧のようになっております。脆弱性調査・研究チームを新たに立ち上げ、国内外のセキュリティコンテストに参加しています。足元では、世界最高峰のセキュリティコンテストにおいて、世界 No.1 を達成いたしました。

また、政府、警察庁、防衛省が対策を本格化する中、イエラエは、サイバー部隊の教育・研修もお 手伝いしています。このような技術支援に対して感謝状も頂戴しております。今後も、日本や世界 の安心・安全なインターネット社会の実現に貢献してまいります。

#### サイバーセキュリティ事業|サイバー攻撃ネットde診断





### インフラ**1,400万顧客**とのAPI連携を開始

**GMO** 49

そして、こうしたトップエンジニアのスキルをより多くのお客様にお届けするのが、SaaS型プロダクトのサイバー攻撃ネット de 診断です。このネット de 診断は、ドメインを入力すると自動でそのサイトに穴がないかどうかをチェックし、判定結果をスコアリングしてお知らせするものです。誰でも簡単に高いセキュリティ水準でサイトの安全性を診断できます。

今年 5 月には、経済産業省が ASM 導入ガイダンスを発表いたしました。ASM は Attack Surface Management の略で、サイバー攻撃から自社の IT 資産を守るための手法として注目されています。ネット de 診断はこの ASM にカテゴライズされるツールとなります。

足元では、インフラ 1,400 万顧客との API 連携に向けた取組みをスタートさせました。ネット de 診断を次のなくてはならないサービスとすべく、取り組んでまいります。どうぞご期待ください。





## AI活用 No.1企業グループ への取り組み

**GMO** 50

次に、AI活用 No.1 企業グループへの取組みです。

#### AI活用No.1企業グループへ | 3つのテーマ

- ①時間とコストの節約
- ②既存サービスの質向上
- ③AI産業への新サービス提供

**GMO** 51

GMO インターネットグループでは、こちらの三つのテーマに基づいて、生成 AI への対応を進めております。一つ目が、時間とコストの節約。二つ目が、既存サービスの質向上。そして、三つ目がAI 産業への新サービス提供。こちらはインターネットのインフラを提供する企業グループとして、AI 産業の発展のベースとなる新サービスを提供するということです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国

1-800-674-8375



#### AI活用No.1企業グループへ | ②既存サービスの質向上





**GMO** 52

こちらは既存サービスの質向上についてです。機能強化に向け AI の組込みが、ご覧のインフラ、 広告、メディアの各サービスで進んでおります。

#### AI活用No.1企業グループへ | ③AI産業への新サービス提供









**GMO** 53

次に、AI 産業への新サービス提供です。GMO インターネットグループでは、AI 産業を支えるインフラとなるサービスを順次リリースしております。例えるなら、ゴールドラッシュにおけるジーンズ、スコップ、つるはしにあたるものです。今回は二つご紹介をいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375



まずは、生成 AI のプロンプトポータルである教えて.AI です。AI との対話の技術とも言えるこのプ ロンプト。プロンプトを使いこなせるかどうかが AI 時代の鍵となります。教えて.AI では、無料で 手軽に高品質なプロンプトをご利用いただくことができます。AI に関心がある人たちの注目・知 識が集まる場を作り、AI産業に新たな価値を提供いたします。

そして、GPU サーバー、ConoHa VPS です。生成 AI のムーブメントが加速する中、その基盤とな る大規模言語モデルの開発に多くの事業者様が取り組んでいます。開発には多くの計算リソースが 必要となり、高い計算能力を持つ GPU への引き合いが強くなっています。

ConoHa VPS は、国内のホスティング事業者として長年にわたり培ってきた大規模インフラ技 術・運用ノウハウをベースに、調達力・販売力を生かし、NVIDIA 社の最新 GPU を搭載したクラ ウドサービスなっています。こちらの提供を通じて、国内 AI 市場のさらなる発展に寄与してまい ります。

#### AI活用No.1企業グループへ | 東京大学 松尾豊教授 顧問就任

AI分野の権威である同氏を招聘



東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター/技術経営戦略学専攻 教授 日本ディープラーニング協会 理事長(2017年~) 新しい資本主義実現会議 有識者構成員 (2021年~) 内閣府 AI戦略会議 座長 (2023年~)

GMO 54

そして、グループ全体の AI への取組み強化への動きです。この度、東京大学の松尾豊教授に顧問 にご就任いただくことになりました。日本の AI 研究の権威であり、ビジネスへの応用に造詣が深 い松尾教授に顧問にご就任いただくことで、グループ全体における AI 関連の取組みをさらに強化 してまいります。

# サステナビリティ経営

## への取り組み

GMO 55

最後に、サステナビリティ経営の取組みです。GMO インターネットグループは、「すべての人に インターネットを | をコーポレートキャッチとして掲げ、創業以来一貫してインターネットのサー ビスインフラという、なくてはならない、なくならないサービスを提供してまいりました。

#### サステナビリティ | マテリアリティ

事業を通じた社会課題解決

挑戦

No.1サービスへのこだわり

インターネット産業で圧倒的No.1のサービスを、自社開発・自社運用で提供する

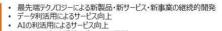
安全

環境

お客様の笑顔を守る責任

安心・安全なインターネットインフラの提供で、お客様の笑顔を守る

事業活動による社会課題の解決 地球環境・社会・人々の幸福に貢献する



No.1サービスを武器にグローバル展開

すべての人に安心・安全なインターネットを 事業継続(BCP)体制の確立



事業活動を通じた地球温暖化への取り組み

#### 経営基盤の強化

人財

信頼

チャレンジを続け、共に成長できる集団 パートナーひとりひとりが活躍できる環境が、No.1サービスを生み出す

ステークホルダーの笑顔を最大化

ガバナンス

GMO

かかわるすべての方との対話を通じて、ファンを増やす

100年単位で継続する企業グループ 持続的成長を実現するための強固な体制を作る



パートナーの笑顔を増やす取り組み パートナーひとりひとりのパフォーマンス向上 GMOイズムという価値を共有する組織の構築



かかわるすべての方の笑顔の創出 地域社会との関係強化



コーポレートガバナンスの強化 グローバル体制の構築

56

この度、GMO インターネットグループにとっての ESG における重要課題を抽出し、ステークホル ダーと自社の両者の視点から検討を行い、六つのマテリアリティを特定しました。ESG 関連の開

#### サポート

日本

050-5212-7790

1-800-674-8375



示は通り一遍な表現になってしまいがちというところもございますが、私たちは借り物の言葉では なく、GMO インターネットグループにおいて最も大切にしている流儀である GMO イズムをもと に、特定をいたしました。

内容はご覧のとおりです。事業を通じた社会課題の解決として、挑戦、No.1 サービスへのこだわ り。安全、お客様の笑顔を守る責任。環境、事業活動による社会課題の解決。そして、これらを支 える経営基盤の強化として、人財、チャレンジを続け、ともに成長できる集団。信頼、ステークホ ルダーの笑顔を最大化。ガバナンス、100年単位で継続する企業グループ。以上を掲げておりま す。こうした重要課題への取組みを通じ、持続可能な社会発展への貢献と持続的な企業価値向上を 追求してまいります。

本日のアジェンダは以上となります。ご視聴いただきまして、ありがとうございました。

# すべての人にインターネット GMO

「すべての人にインターネット」

#### 脚注

1. 音声が不明瞭な箇所に付いては「音声不明瞭」と記載

#### 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、 SCRIPTS Asia 株式会社(以下、「当社」という)は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いませ ん。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかな る投資商品(価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動してい る投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等)の情報配信・取引・販売促 進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的 としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行ってい ただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不 能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った 損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものと します。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸 失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付 随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属しま す。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部 又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布(有料・無料を問いません)、ライセンスの付 与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

